

■アルゼンチン・ウルグアイ：6月16日の早朝に広域停電が発生

アルゼンチン日刊紙は2019年6月16日（日）、同日にアルゼンチン全土（南部フエゴ島除く）と隣国ウルグアイにわたる広域で大規模停電が発生し、5,000万人以上が影響を受けたと報じた。報道では、地下鉄や鉄道なども運休し、隣国パラグアイやブラジル南部地域の一部にも影響が出たことが報じられている。停電の発端はアルゼンチン東部サルト・グランデ～ヤシレタ間の500kV送電線の故障で、その後、アルゼンチン電力系統（SADI：Sistema Argentino de Internexión）内の発電所が停止し、影響が広範囲に及んだものとされる。同送電線はサルト・グランデ水力発電所、ヤシレタ水力発電所が接続しているもので、サルト・グランデ水力発電所（189万kW）はウルグアイの電力需要の50%程度、およびアルゼンチンの電力需要の3%程度を賄うとされているが、停電の影響で停止した。一方、ヤシレタ水力発電所（320万kW）は停電による影響はなかったと発表されている。今回の原因について政府発表は無く、系統運用者CAMMESAのJorge Ruíz Soto氏は「停電の発生原因は特定できていない」と述べている。エネルギー省は48時間以内に原因の究明に当たるとしている。同省はサイバーテロによる攻撃も原因の一つとして排除しないが、前週の大雨で送電線に何らかの影響があったことも推測されている。アルゼンチンのマクリ大統領は6月17日に声明を発表し、復旧状況を伝えるとともに、根本的な原因を調査すると約束した。